

《全面研の今後を考えよう》

「全面研は続けて下さい…」

庄司先生が亡くなる直前に親族の方に語った言葉

庄司先生逝く

この5月5日未明、闘病中の庄司和晃先生が逝かれてしまった。入院して2ヶ月が経った4月11日に我々研究会のメンバーが病院を訪ねたときにはお元気そうだったので、まさかと思わざるを得ない訃報であった。

最後の例会参加となった今年の1月31日には、自らの研究遍歴の第4回として柳田国男研究が熱く語られたばかりであったので次回を楽しみにしていた一人として、この喪失感は何とも言いがたい。

自らの出自と青年時代を語った第1回、戦後の混沌期に宗教学を学んだ頃が第2回、成城学園での教員としての活躍をはじめられた時代が第3回、そこから柳田国男との出会いを経て仮説実験授業、三段階連関理論の設計、全面教育学へと続く研究遍歴の口述が予定されていた。

最後となった1月例会での庄司先生の声をあらためて聞き直すと何度も「これは遺言です」という言葉が聞かれたことに気がつく。お元気の語り口調から我々は簡単に聞き流してしまっていたのだが、庄司先生には格別の思いがあったのかも知れない。

その遺言とは、柳田国男の学問を教育実践に生かすということである。先生の中にはまだ柳田を生かし切れていないという思いがあったに違いない。庄司和晃認識論は、柳田国男の影響が大きい。その広く俯瞰的なものの見方、考え方は先人の知恵のたまものでもあった。明治以降のわずか百数十年の学校教育は教育の代名詞として語られることが多いが、全面教育学の教育はその範疇におさまるものではない。「史心」というスピリットでしっかりとリレーされた伝承行為なのである。

通夜・葬儀の両日、私は受付を担当していた。窓口は「一般・親族」と「学校関係」と分類された。印象深く感じられたのは、成城学園の教え子です、と名乗る方々の多いことであった。担任が86歳の高齢ともなれば生徒もそれなりの年齢となるだろうし、ましてやそのつながりは疎遠となっていくはずだが、その方々の語り口から先生に対する熱き思いが彷彿としていることをうかがい知ることができた。ここにも庄司先生の魂が生きていたのだ。また、「一般」の方々にもそうそうたる教育関係者が多く参列され「学校」だけでない「教育」を語っていた庄司先生のふところの広さを知る思いだった。

まだ先生に尋ねたいことが山ほどあった

のだがそれが叶わぬことになってしまったのは痛恨である。

庄司先生はもうじき彼の地で柳田国男など様々な方と再会していることをせめてもの慰みとしたい。

(5月8日 文責 徳永忠雄)

*ホームページ追悼文より引用

今後の全面研を考えて下さい

庄司先生亡き後の全面研の課題は多い。様々な人に意見を聞いて課題をクリアしていかなければならないが、ここでそれらをいくつかにまとめてみた。

■会の運営をどうするか

庄司先生がおられてこそその全面研であったが、年4回の例会は維持は果たして可能なのか。

道岡さんは「全面研はみんなそれぞれやっていますよ」という。具体的に三段階連関理論を援用している人は少なくないだろうし、多摩では向井さんを中心に伊東さんもその手法を実践化しつつある。

また、横浜方面でも植垣さんの薫陶化で看護学校の先生達が認識論を意識して仕事に役立てていることは周知の通りだ。

かくいう私自身もつたないが塾でコトワザや認識論を意識した学習を進めている。

■ネットワーク全面研構想

これらのことを踏まえ尾崎さんは、それぞれがやっていることを前提に例会を年2回ほどの発表会にして運営していったらどうかと考えているようだ。

そのためにもそれぞれの場所、たとえば多摩・神奈川・松戸・長野などをネットワークでつなぎ、情報交換は密にしていくこ

とができればと思う。

会の名前も「庄司和晃研究会」にしてどうかとも言っている。

■まだまだ足りない柳田国男の教材化

晩年に庄司先生は「もっと柳田を教材化して欲しい」というようなことをしきりに言われていた。

たとえば国語ではコミュニケーション能力と連動するとともに『少年と国語』の中の読み物をもっと広げていってもいいだろう。

社会科では、「人の一生」構想だけでなく、良き選挙民をつくるとはどういうことなのか、史心を子どもたちに抱かせるためにはどのようにすればいいのか…などなどが思い当たる。

■そのほか

- ・追悼集をどのように編纂していくか。
内容／体裁／書式／しめきり／担当など
- ・庄司先生の著作の編纂についてのご家族の方との了承を得るなどの協議
- ・あまり閲覧されていないと思われるホームページの今後の運営問題などが考えられる。

以上のような懸案事項を例会で協議します。みなさん7月4日(土)にはぜひ参加して下さい。

【7月全面研全体協議】

日時：7月4日(土)14:00

場所：成城学園 大学棟3F

今回やむを得ない理由で欠席の方は、同封のハガキにご自分の意見をご記入の上、事務局に返信をお願い致します。

7月3日までに必着！
